



台風はどうしてくるの

上空の風に乗ってくる

上空には、大きな空気の流れ（風）があります。台風がくるのは、空気の流れに乗ってくるからです。

熱帯の上空では、東風がふいています。また、温帯の上空では、西風がふいています。熱帯で発生した台風は、初めは熱帯上空の東風に流されて、西へ動きます。そして、そのまま西へ動いて、フィリピンやベトナムの方へいってしまうのがあります。

しかし、温帯の上空の西風と、熱帯の上空の東風をへだてている、上空の高気圧にわれ目があると、そこに入りこんで北上し、温帯の西風の中に入って北東に進みます。

日本では夏から秋にくる

台風が発生しはじめるころは、日本付近をおおっている太平洋の高気圧が強いので、台風は、日本に近づくことができません。夏の終わりから秋にかけて、太平洋の高気圧の勢いが弱くなってくるころに、台風は日本にやってきます。

熱帯低気圧が台風になる

日本の南方、赤道に近い南の海上付近は熱帯地方です。熱帯地方の海では、たえず太陽が照りつけて、海水の温度が高くなっているため、湿った温かい空気が上昇気流となって空へのぼり、低気圧となります。これを熱帯低気圧といいます。熱帯低気圧の中で、1秒間に17.2メートル以上の風がふくものを台風とよんでいます。

（監修・村山 貢司）

